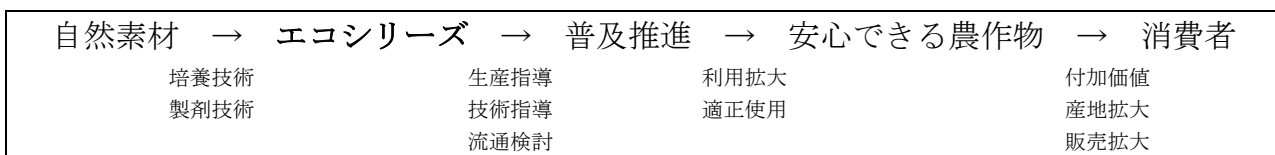


微生物農薬「エコシリーズ」への取り組みについて
 -エコショットの販売開始とエコシリーズ普及推進チーム設置を中心として-

クミアイ化学工業株式会社

クミアイ化学工業株式会社（社長：望月信彦）では、安全・安心を求める消費者のニーズに応えるため、より安全で環境にも優しい農薬の開発に積極的に取り組んできております。その一環として、消費者が求める安心できる農作物の生産に対応する微生物農薬「エコシリーズ」の継続的な開発と品揃えを進めております。



微生物農薬は自然の素材から、これまでに知られる学術的知見を基に徹底的に調査・研究し、微生物農薬として利用可能な素材を見出し、さらに培養技術や製剤技術を駆使してその素材を農薬として利用可能な製品に磨き上げたものです。従いまして、消費者の皆様が安心して手にして戴ける農作物を生産するための有用な生産資材になるものと確信しております。

1. クミアイ化学の微生物農薬「エコシリーズ」への取り組みについて

クミアイ化学では、平成15年に販売を開始した水稻種子消毒剤「エコホープ」を始めとして、それを固形製剤化することで保存性と輸送性を高めた「エコホープドライ」（平成17年上市）を販売しておりますが、平成18年3月、果実に対する汚れが少なく、保存性に優れた果樹野菜用殺菌剤「エコショット」を上市いたします。また、この秋には、軟腐病防除効果の高い「エコメイト」を上市予定です。

現在も「エコシリーズ」の開発を継続しており、水稻用殺菌剤として、昨年度より「エコホープDJ」の公開委託試験を開始し、平成19年上市に向けて開発を継続中です。さらにこれらに続く有効な微生物農薬を見出すべく、研究開発本部内に「エコシリーズ」開発推進チームを設置し、新たな素材の探索と製品化研究を注力して継続しております。

また、平成15年10月、微生物による防除法の研究者や農業生産者の皆様にお役に立てばと、我が国で研究されている拮抗微生物を用いた作物病害の生物防除技術をまとめた「拮抗微生物による作物病害の生物防除」を発刊いたしました。同書は岐阜大学農学部の百町満朗教授監修のもと、日本の代表的な第一線の研究者の方々にご執筆頂き、日本における細菌や糸状菌による生物防除技術、生物防除の歴史と将来展望、農薬登録上の課題などについて詳しく紹介しております。

さらに、微生物農薬を農家の皆様に適切かつ効果的に使用していただくため、研究開発本部と営業本部を横断した「エコシリーズ」普及推進チームを設置し、当社「エコシリーズ」の紹介や技術指導にも積極的に取り組んで参ります。

2. クミカの微生物農薬「エコシリーズ」の紹介

1) エコホープ

静岡県内で採取した糸状菌トリコデルマ・アトロビリデ SKT-1 を有効成分とする水稲用種子消毒剤で、糸状菌、細菌の両方に起因する病害に既存の化学農薬と同等以上の防除効果を発揮する。環境負荷が少ないのが特徴で、トータルコストも既存化学農薬と同等である。本菌が病原菌と競合して増殖することで病原菌の繁殖を抑制する。日本植物防疫協会による 96 箇所での公開委託試験において高い評価を得て、平成 15 年 1 月 28 日付で農薬登録を取得し、販売を行っている。適用病害はいもち病、ばか苗病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病、ごま葉枯病で、200 倍に希釈して種子を 24-48 時間浸漬して処理する。薬剤耐性はなく、各種化学農薬の耐性菌に対しても高い防除効果を示す。土壌中では速やかに自然界に存在する菌量まで減衰し、水系では死滅するなど水棲生物や他の生物への影響はほとんどない。

2) エコホープドライ

エコホープドライは、エコホープを粉末製剤化することで、室温 6 ヶ月間の保存を可能にして取扱と輸送性を改善した製品であり、日本植物防疫協会による 87 箇所での公開委託試験において高い評価を得て、平成 16 年 11 月 24 日に登録を取得し、販売を進めている。適用、効果ともにエコホープ同等で、化学農薬と同等以上の生物効果を有する。

3) エコショット

エコショットは、細菌であるバチルス・ズブチリス D-747 株の芽胞を有効成分とし、日本植物防疫協会による 58 箇所での公開委託試験において高い評価を得て、平成 17 年 10 月 5 日付で農薬登録を取得し、本年 3 月より販売を開始する。対象作物は野菜類、ブドウ、かんきつで、野菜は収穫前日まで使用可能である。発病前に散布することで、植物体上で病原菌より先に定着し、病原菌の活動を抑制することにより防除効果を発揮する。急性毒性は普通物、魚毒性は A 類相当と安全性が高く、ミツバチやマルハナバチなどの有用昆虫にも影響が少ない。顆粒水和剤で扱いやすく、果菜類への散布後の汚れが少ない特徴をもつ。トマト葉かび病への適用拡大も申請した。

3. 今後の「エコシリーズ」の開発展開

クミカの微生物農薬「エコシリーズ」は、現在までにイネ種子消毒剤「エコホープ」「エコホープドライ」の 2 剤を上市・販売しており、本年度はさらに、ニーズの高い果樹、園芸用殺菌剤「エコショット」並びに「エコメイト」の販売を開始する予定です。また、種子消毒分野での適用病害を広げ、効果をさらに安定化させた「エコホープ DJ」の開発を現在進めております。

さらに、これらに続く新たなエコシリーズ商品の開発については、産官学と連携しつつ、可能性の見出された素材について開発を行い、「エコシリーズ」を通して消費者の皆様が安心でき、農家の皆様に使い易い商品の開発を積極的に進めております。

4. 「エコシリーズ」の普及推進

昨今の農業を取り巻く環境は、消費者の安全・安心への関心の高まりを背景に、農家の特別栽培への志向が急速に高まってきており、弊社といたしましては、こうしたお客様のニーズに的確に対応し、安心、安全な農薬を農家の皆様に提供することを通じて、付加価値のある農産物の生産に貢献してまいります。

「エコシリーズ」の普及推進にあたり、社内の様々な部門の連携によるエコシリーズ普及推進チームを結成し、JA全農グループのすすめる「安全・安心への取り組み」と強固に連携し、農家の皆様に「エコシリーズ」製品を適切かつ効果的にお使いいただけるように、地域に密着したコンサルティングを展開し、製品の普及と技術指導を精力的に手がけて参りたいと考えております。

この様にコンサルティングを通じて、お客様のニーズを十分に把握し、近い将来に微生物農薬の分野においてもリーディングカンパニーの位置づけを確立するべく、継続して消費者、農作物生産者の皆様のお役に立てる製品の研究開発、普及に努めて参ります。

【エコシリーズ写真】



【広報担当者】

クミアイ化学工業株式会社 総務部総務課長

同

研究開発部企画課長

相馬 寿次 TEL : 03-3822-5036

吉村 巧 TEL : 03-3822-5163